

全国連盟通信

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402
TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403
Eメール: zenkoku@njsf.net ホームページ: <http://www.njsf.net>

発行責任者 石川正三

「スポーツを行う者の権利の保護」と 「スポーツ団体の努力」を考える

今年に入って、平昌冬季五輪、アジア大会での日本選手団の活躍、各種目の国際大会などでの日本選手の活躍に多くの国民の共感と2020東京五輪への期待が広がっています。

その一方で、選手たちの活躍への共感を台無しにし、スポーツ価値を根底から否定する不祥事が頻発しています。今年だけでもカヌー選手のライバル選手への禁止薬物投入問題、レスリング協会の強化本部長(当時)による女子選手へのパワーハラスメント、アメリカンフットボールの試合中に監督・コーチの選手への悪質な反則行為の指示、日本ボクシング協会のアスリート助成金の流用と不正な審判の強要、居合道の称号認定審査における不適切な金銭授受問題、アジア大会のバスケットボール男子代表選手4人の買春行為発覚、体操協会コーチの選手への暴力行為への処分、そのコーチへの処分に対する当該選手からコーチへの処分軽減要請と体操協会副会長、強化本部長のパワーハラスメントを受けたとの告発。その後も女子アイスホッケーチームの指導者の暴力行為とパワーハラスメント、日体大駅伝部監督のパワーハラスメントなど後を絶ちません。

こうした事態に対し、多くの国民から「スポーツ界はどうなっているのか」「2020東京は大丈夫なのか」などの厳しい批判が寄せられています。

これらの事件・不祥事については、それぞれの個別の事実に即した問題の性格を検討し適切な対策が必要なことは言うまでもありません。同時に、スポーツ界全体が今真剣に検討すべき共通の課題を明確にし共同の努力を進めることが必要だと考えます。そのいくつかの課

題を提起し、連盟内外で広く討論を進めることをよびかけます。

①スポーツ団体の役割を検討する。その際、スポーツ基本法第5条の「スポーツ団体の努力」が提起している「スポーツを行う者の権利の保護」とスポーツの推進、運営の透明性と自律的基準の確立、スポーツに関する紛争の「迅速かつ適正な解決に努める」ことなどについて、それぞれの団体の現状や課題に即して検討し改革を推進する。

②選手・アスリートを含む「スポーツを行う者」の役割と課題について、人権とスポーツの権利の担い手として尊重する立場から明らかにし共有する。

③スポーツ及びスポーツ界の動向を社会全体の動向の中に適切に位置づけ、スポーツ界から社会に能動的に発信する努力を強める。

④スポーツ指導における暴力的言動を排除し、科学性と人権尊重を広げる努力を行う。

この間のパワーハラスメントの告発の広がりやスポーツ界の古い体質への厳しい世論は、スポーツ基本法の「スポーツを行う者の権利の保護」などによる選手・アスリートの権利意識の変化とスポーツに対する社会的国民的な期待と関心の高まりの反映であることを自覚し、文化と人権にふさわしいスポーツとスポーツ界にするために「スポーツ団体の努力」の一端を担いたいと思います。
(新日本スポーツ連盟会長 和食昭夫)

第2回理事会(スカイプ)報告

第33期第2回理事会が、8月25日(土)スカイプで行われました。開会で石川理事長は、「スポーツ団体の不祥事が次々におこった。スポーツにおける人権、民主主義を考えると、自身の組織に引き寄せて考えること、スポーツ連盟の取り組みがますます重要となる」と挨拶しました。各局からの報告・議論の内容は以下の通りです。

【スポーツ活動・組織局】

- ・全国テニス協との種目懇談会を9月で調整中。
- ・「組織拡大交流会議」の開催骨子に向けて意見集約した。「都道府県連盟がどうあるべきかについても議論すべき」「空白をなくすことに目を向けることの意味で『拡大』は必要」「集中的な論議をするには、2日間は必要」「『拡大』という言葉を取るほうが底辺を広げることになるのではないか」などの意見が出された。
- ・第32回全国スポーツ祭典サッカーシニア大会を岩手で実施するが、参加少なく地元との協力を模索。
- ・第34回祭典(2022年)を四国・中国ブロック開催についてのアンケートを実施中。
- ・「祭典基金から支出する補助の規定」について、「実施要項細則」に追加。

【スポーツ権・平和運動局】

- ・「反核平和スポーツのつどいin広島」は関係者の協力で成功裡に終わった。
- ・意見として、「広島ー長崎500km」ではランナー組織や運営での全国的な取り組みに」との呼びかけがされた。
- ・公共スポーツ施設情報センターでは、現在、スポーツ権局員の足元から調査を始め、滋賀、千葉、東京、愛知から提出がある。今後、県下のすべてに広げたい。

【国際活動局】

- ・「Vivicitta」は、横浜、東京、大阪で開催されているが、他の地域に広げられないか検討したい。
- ・2019年3月全国スキー協50周年事業へのFSGT招待については、現在招待状を作成中。
- ・「2019年神奈川ランニングセンターによるFSGTの招待」について今後調整していく。

【広報局】

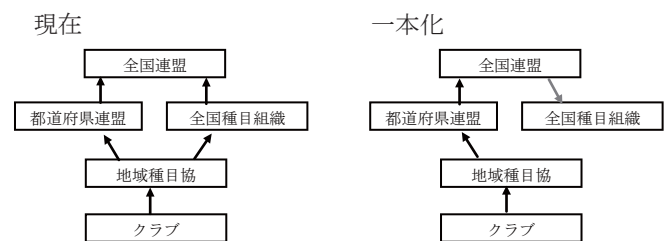
- ・「スポーツのひろば」は総会時からは41部の減となっているので、回復の取り組みが必要。「紹介キャンペーン制度」「大会での販売活用」「スマホ版(有料)」などを検討。
- ・「WEBからの大会参加申し込みシステム」の試作版をテスト中。今後実用化に向けて、制度を検討する。

【総務局】

- ・「リーダー養成講座」を“eラーニングシステム”での実施を検討。
- ・クラブや組織の活性化を図るために、長年にわたり活動してきたクラブ・個人への顕彰制度を検討中。
- ・西日本集中豪雨での被害に義援金いただき、岡山、広島の会員被災者に第一次お見舞金を渡した。義援金は全体で130万円以上集まった。

【分担金・組織検討委員会】

- ・これまでに2回分担金・組織検討委員会を実施。
- ・現在の分担金制度は「全国種目組織と都道府県連盟の共同組織」という規約を形にしたものと説明。加盟を促進するための分担金の在り方を検討することが目的。
- ・都道府県連盟の必要性を確保するために、会費を集めるルートを一本化する提案について



「1本化となれば都道府県連盟の事務負担は増えるのでは」「種目組織の意見は?」「1本化すれば県連盟不要論がなくなるわけではない。別の問題」「今のままでしっかりしているので変える必要ない」「組織運営の問題になるのではないか」などの意見があった。

- ・他に「これから加入する組織についてどうするか」の検討が必要ということ」「県連盟あるところとないところでの分担金の金額に差があることが問題」「個人種目とチーム種目の関係で、県と全国への登録数の違いが現状は出ている」など、率直な意見が出された。
- ・総会の在り方については、「より多くの討論時間の確保」「2日目午後の時間の使い方の見直し」「分散会は発言しやすく良いが、討論の準備できる代議員に参加してほしい」「総会の規模をもう少しスリムにしても良いのでは」などの意見が出された。
- ・共同代表制については、「イメージが湧かない」などの意見があり、改めて検討委員会での論議に生かしていくこととなった。

今後、12月の理事会に向けて、各部局・プロジェクトや委員会で引き続き論議、具体化していくこととなりました。

第32回全国スポーツ祭典が開幕！



「東北発 広げよう スポーツの輪」をスローガンに、14年ぶりに東北主管で本祭典が開催されることを嬉しく思います。東北で行われる種目はそれほど多くはありませんが、多くの選手並びに関係者の方々、また応援にかけつける方々を心より歓迎いたします。

今回の祭典はこれまでと違い、「復興支援グッズ」を用意しておりません。東北にお越しになられる方々に、食や物産品、文化を通じて東北の現状を知って頂きたい、という思いが実行委員会共通の認識であるからです。

さて、6月に宮城県栗原市にある栗駒山にて開催された登山祭典を皮切りにいよいよ第32回全国スポーツ祭典が始まりました。登山経験はほぼ皆無でしたが、実行

委員長として登山祭典に参加させて頂きました。霧がたちこめる中、険しい山道を登っていくと中腹あたりで晴れ間が見えました。残雪もあり、ここから頂上を眺めると違う世界に見えました。感動と共に「必ず登頂するぞ！」と強い思いが湧き上がってきたのを覚えています。地元宮城や岩手からの参加者がほとんどでしたが、関東方面からお越し頂いた方も数名おり、とてもありがたかったです。会場にいらした和食会長も、「幸先のよいスタートができた」と賛辞を頂きました。

全国の皆さま、平和とフェアプレイの名の下に「どこでも、誰もが、スポーツを」を体現できる全国スポーツ祭典を大いに楽しみ、感動を共有しましょう！

(第32回全国スポーツ祭典実行委員長 柿崎勝)



柿崎実行委員長(山頂にて)

空白対策助成制度の積極的な活用を

新日本スポーツ連盟では各都道府県連盟や全国種目組織、地域の種目組織等々で日々旺盛な活動を行っております。しかし全国津々浦々にスポーツ連盟の組織があるわけではありません。「いつでも どこでもだれもがスポーツを」の環境を広げていくためにも各県、各地域にスポーツ連盟の組織確立が不可欠です。

卓球やバレーボールをはじめとしたいくつかの種目組織では、出前大会を開催して地域の協議会作りの足がかりをつくり、新たな組織を確立した成功例も多々見られます。

空白地域の克服は、スポーツ連盟が組織を拡大しさらに飛躍していく上で大きな課題の一つでもあります。地域組織、種目組織が新たな運動を展開し、仲間づくりを進めていくために「空白組織対策事業助成制度」があります。この制度は、組織のない地域で出前大会などの事業を開催することや、組織立ち上げに向けた会議や打合せ、セミナー、宣伝等にかかる費用を全国連盟が助成する制度です。1組織(都道府県連盟または

全国種目組織)、年間2回、1回につき3万円を上限として利用することができます。

より多くの組織にこの制度を活用していただき、スポーツ連盟の良さをたくさんの人に知ってもらい、仲間づくりの輪を広げ新たな組織結成に向けた足掛かりをつくる一助になればと考えております。

申請方法、申請書等は全国連盟に用意しておりますのでご連絡ください。また申請に関する質問等も全国連盟までお気軽にお問い合わせください。

(スポーツ活動・組織局長 宮内泰明)



空白地域での事業をサポートします！

2018反核平和スポーツのつどいin広島

8月4～6日、「反核平和スポーツのつどいin広島」が開催されました。今年も、つどいの企画全体に対する広島市の名義後援を受けることができ、延べ483名の参加で成功裡に終わりました。

[企画ごとのまとめ]

1. 平和大好き卓球大会 (8/4 中区スポーツセンター)

324名



参加者が昨年より増加して開催できました。岡山、千葉など他県の卓球協議会から選手が参加して、大会を盛り上げました。

2. 戦跡巡り (8/5 平和公園内～島病院～本川小学校等)

20名



語り部松田久美子さん(広島被団協)は、3回目となりますが、毎回、聞く者を引き付ける語り口で、特に新しく参加した方々には、大いに勉強になりました。

3. 交流のタベ (8/5 広島グリーンアリーナ会議室)

46名



今回は、総勢46人と一段と規模の大きな取り組みとなっています。国民平和大行進で海外青年リレー行進者として福岡～広島を行進した韓国体育市民連帯のイ・ジェヨンさん、広島～長崎500km反核平和マラソン参加のFSGTスタンクラブの5人のメンバーと通訳の鎌田悠子さんが参加して国際的な交流のタベとなりました。

今年も、第1回大阪～京都反核マラソンを立ち上げた山根正弘さん(大阪府連盟)から、当時の反核平和マラソンが立ち上がるまでの逸話をお聞きしました。とりわけランニングが大嫌いな柔道家だった山根さんがマラソンに傾注していったお話は、会場を楽しませてくれました。全国各地の反核平和マラソンの様子が映像にまとめられ紹介され、参加された方々から一目でよくわかると好評でした。

4. 広島城公園平和マラソン&ウォーキング (8/6)

42名



昨年、広島県連盟の吉岡事務局長が実行委員長となって取り組まれています。次の500km平和マラソン出発式が7時45分から行われるため、

つどい参加者は1周のみの参加になりましたが、早朝からさわやかに、核兵器廃絶の思いを一つにしました。

5. 広島～長崎500km反核平和マラソン出発式 (8/6)

37名



平和資料館、嵐の中の母子像の前で、7時45分から出発式が始まりました。平和資料館の中側では、広島市の平和記念式典が挙行されている

中、外側で出発式を挙行しました。33回目の500km反核平和マラソンは、この異常気象の暑さの中で、「気温が35度を超えたら走らない」と決め、事故が起きないように細心の注意を払いながら、長崎500kmをタスキリレーで走ります(8月8日まで)。FSGTの5人のメンバーは、核兵器廃絶への思いを共感して走る決意を述べていました。8時15分、式典の中と外で、全員が黙とうを捧げ、長崎に向けて出発しました。

6. 二葉の里ピースウォーキング (8/6)

14名



二葉の里ウォークは、このつどいの2回目の戦跡巡り。語り部の川野幸代さんのお話を聞きながら、爆心からほぼ2kmに位置する二葉の里の牛田地区は、一瞬にして焼け野原となり、お寺の大きな銀杏の木が葉が全部の焼け落ち、一面の焼け野原になった話、山陽線を走っていた貨物列車が爆風によって、脱線している写真などの資料も紹介されました。

練兵場に架かる工兵橋は、兵隊にとられる息子と別れを悲しんで涙する母親がたくさんでいたというので、一名を「渦橋」と呼ばれる由来など、普段聞けない話を多く聞けて充実したウォーキングとなりました。



公共スポーツ施設情報センター 当面の活動

第1回理事会(今年4月)において、スポーツ権・平和運動局内に「公共スポーツ施設情報センター」が設置され、今日、公共スポーツ施設が確保しづらくなってきている現状を打開していく上でも、我々の周りの施設の実態がどうなっているのかを調査してみようということになりました。6月に依頼した調査票に基づき現在、各組織にお願いしているところです。

特に、調査にあたっては、普段使っている施設の他に、もっと利用できる施設はないのか、貸出方法については優先利用の可能性はどうか、そのほか使用料、施設の規模、減免制度の適用はどうなっているのかなどを調べていくことが求められています。

最近の新設施設では、通常の基本料金の他に冷暖房代が大きな負担になっていることが問題になっています。逆に、冷房施設のない体育館では、猛暑日には大会を中止するところも出てきています。

今、国民体育大会(国体)が二巡目を迎え、各地で行われていますが、その後の施設の跡利用でも市民が使いやすくなっているのかなど公共スポーツ施設を巡ってもっと関心を深めていく必要があります。

このように調査を推進することによって、いろんな課題が浮かび上がり、より使いやすい施設にしていくには、自治体への要望、交渉なども行っていくことが必要です。

現在、まだ、各組織では、調査が進んでいませんが、連盟の活動を広げ、推進していくためにも施設問題は、避けては通れない課題だろうと思います。(公共スポーツ施設情報センター責任者 北川登)



公共スポーツ施設情報の調査表

地方公共団体名		集約日						公共スポーツ情報センター	
施設名称	所在地域	施設の規模(面数)				貸出方法	利用料金	減免制度	その他事項(備考欄)
		面	(バス)	(バレー)	(卓)				
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									

(備考)学校施設についても、記入をお願いします。



原水協 青年リレー行進に 韓国体育市民連帯の学生が参加

2018年国民平和行進の福岡から広島まで歩く国際青年リレー行進者に、韓国体育市民連帯から19歳の大学生イ・ジェヨンさん(写真①)が参加しました。

イさんは、7月13日に福岡市内で行進者らと合流し、8月4日のお昼前に広島市平和記念公園に到着。23日間を無事に完歩してくれました。4日の夜には、青年交流の「Ring!Link!Zero2018in HIROSHIMA」に参加し、600人ほどの大勢の参加者らの前で発言もされました。前日の発言要請で台本もない中、流ちょうな日本語で、イさん自身も参加したろうそく革命など民主的な力で朴大統領を弾劾に追い込んだ経験など韓国社会の現状を中心に報告しました。

FSGT スタンメンバー 広島～長崎を走る

フランス・FSGTのスタン陸上クラブのメンバー5名がプライベートな日本旅行の日程を割いて、8月6～8日の広島～長崎反核平和マラソンに一般参加しました(写真②③)。5日に日本に到着したばかりで、しかも大変な酷暑であったにもかかわらず、3日間を元気にアピールランしてくれました。

韓国学生とスタンメンバーと交流

8月5日、広島グリーンアリーナで開催された反核平和マラソン交流の夕べに、韓国体育市民連帯のイ・ジェヨンさんとフランスFSGTのスタン陸上クラブの5名のメンバーが参加され(写真④)、それぞれから連帯のスピーチをいただきました。(国際活動局長 長井健治)

新日本スポーツ連盟機関誌

「**スポーツのひろば**」の購読をオススメします!



生涯スポーツに役立つ情報

- ・運動神経の良し悪しは生まれつきじゃない!?
- ・体をメンテナンスするポイントとは?
- ・「見るチカラ」を鍛える — スポーツビジョン
- ・健康はスポーツから スポーツは歯から
- ・メンタルトレーニング 自分の「こころ」を知ろう
- ・人間の能力を引き出すコツ スポーツ上達のために

定価 **290円** 年間購読 **2,900円**
年10回発行 (送料込みの場合 3,600円)

ホームページアドレス <http://hiroba.njsf.net>

お申し込み・お問い合わせは以下まで

スポーツのひろば

検索

TEL 03-3986-5401

FAX 03-3986-5403

E-mail hiroba@njsf.net

災害・復興支援活動について

今年の夏以降、各地で豪雨、台風、地震などの自然災害により被害に遭われた方々や被災地域の皆さまにお見舞い申し上げます。

西日本豪雨災害

現在、スポーツ連盟の会員で24名の方が被災されていることがわかっていますが、全国連盟では、被災された会員や被災者への支援を行うために義援金を呼びかけています。

▼スポーツ連盟関係者の被災状況

[岡山]

- ・倉敷市真備町在住の卓球協議会会員、15名が土砂崩れにより家屋が全壊(または半壊)。
- ・備前市在住の卓球協議会会員、1名が床上浸水。
- ・野球協議会会員、2名が床下浸水。
- ・8月9日以降、新たに卓球協議会会員3名が被災されていることがわかりました。

[広島]

- ・卓球協議会会員、3名が被災(家屋全壊)。

▼義援金の受付状況

愛知卓球協、神奈川ウォーキングクラブ、全国卓球協、東京卓球協、三重卓球協、愛知バドミントン協、東京ウォーキングクラブ、東北ブロックスキー会議、盛岡ウォーキングクラブ、東京・大田卓球協、多摩卓球協、福岡・みずまき月例、町田卓球協、四谷卓球クラブ、福岡県連盟、福岡市テニス協、滋賀県連盟、月例川崎マラソン、長野県連盟、新横浜ウォーキングクラブ、宮城あしがる会、東京都連盟、愛知スキー協、神奈川卓球協、愛知ウォーキングクラブ、和歌山ウォーキングクラブ、板橋卓球協、東京水泳協、反核平和のつどいin広島、愛知バスケットボール協会、静岡西部地区連盟、三重ウォーキングクラブ、宮崎卓球協、仙台ウォーキング、1Daysスキークラブ

台風21号

9月4日、近畿地方を中心に被害をもたらした台風21号で、滋賀県勤労者スキー協議会所属のクラブ、ブラファーズの元会長であった小川忠喜さんが、会社倉庫の下敷きになりお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

北海道地震

現在、北海道連盟と協力して、スポーツ連盟会員の安否・被害状況の把握に努力しているところです。今後、状況にあわせて、被災地のスポーツの再生・再開を支援する活動を検討します。

個人39名から 総額 1,414,137円(9月14日現在) ご協力くださり、ありがとうございます。



・8月5日に開催された「反核平和スポーツのつどいin広島」で、全国から集まった義援金を一時お見舞い金として、広島県連盟(写真左)と岡山卓球協議会(写真右)に手渡しました。

・8月24日、岡山野球協議会(10万円)に送金しました。



・よこはま月例マラソン運営委員会が尾道卓球大会(7/21開催)に義援金を手渡しました。

お寄せいただいた義援金は、被災された会員や被災への復興支援に全額活用していきます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

〈送金先〉

郵便振替＝口座番号 00110—1—56939

名義・新日本スポーツ連盟

*「豪雨災害義援金」と明記ください

東北復興支援「義援金報告」

第33回定期全国総会資料(2018年3月10-11日)以降の内訳 義援金募金の受付はありませんでした

義援金(スポーツ連盟支援募金) 充当状況
行事・競技会、ボランティア活動への支援金

労山・子どもプロジェクト	2018/6/25	50,000
全国卓球福島県卓球大会	2018/7/1	150,000

2011年からの義援金受付・状況

連盟支援募金・FSGT支援募金 総額	10,415,085
執行合計	9,755,054
募金残高	660,031

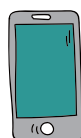
第33期全国会議及び主要事業予定一覧 (2018年9月～2019年3月)

全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
9月1～2日	関東ブロックスポーツセミナー(箱根)
3日	「スポーツのひろば」10月号発行
8～9日	全国スキー協サマーセミナー(上越市)
9～10日	スポーツ科学研究所 第8回研究会(京都)
17日	全国スポーツ祭典水泳大会(東京都)
22日	東海ブロックセミナー(豊橋)
22日	西日本ブロックセミナー(大阪)
10月 2日	「スポーツのひろば」11月号発行
6～7日	全国スポーツ祭典交流ウォーク(松島)
13日	オリパラ都民の会シンポジウム
11月 1日	「スポーツのひろば」12月号発行
3～4日	全国スポーツ祭典軟式野球大会(岩手県)
3～4日	全国スポーツ祭典シニアサッカー大会(岩手県)
3～4日	全国スポーツ祭典バスケットボール大会(愛知県名古屋市)
11日	全国スポーツ祭典陸上競技大会(神奈川県)
10～11日	全国スポーツ祭典6人制男女バレーボール大会(新潟県長岡市)
10～11日	全国スポーツ祭典ソフトボール大会(福島県)
15日	全国スポーツ祭典ゴルフ大会(埼玉県)
17～18日	全国スポーツ祭典卓球大会一般の部(岩手県)
17～18日	全国スポーツ祭典テニス大会(宮城県)
24日	全国スポーツ祭典空手演武会(神奈川県)
12月1～2日	全国スポーツ祭典バドミントン大会(名古屋市)
1～2日	全国スポーツ祭典ミックスバレーボール大会(長野県)
9日	高蔵寺弾薬庫一周平和マラソン
8～9日	33期第3回理事会
2019年	
2月9～10日	33期第1回評議員会・第4回理事会
3月1～10日	全国スキー協50周年記念ウィーク
2～3日	全国スポーツ祭典スキー競技大会(新潟県)
9～10日	全国野球協総会
29～31日	全国スポーツ祭典卓球大会年代別の部(岡山県)

*追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。



ホームページ
作成支援



「ホームページ(フェイスブックページ)を作りたいけど、どうすれば…」
という悩みのある組織をサポートします。
お気軽にお問い合わせください。

TEL 03-3986-5401

スポーツ連盟の スポーツ仲間の『助けあい』を! 傷害見舞金制度



行事加入型

1行事1人70円(1大会2日間まで対応)

スポーツ連盟もしくは加盟団体・クラブが主催する
競技大会等の行事で発生した傷害と特定疾病を対象
に給付が行われます。

詳しくは全国連盟 傷害見舞金係まで

給付金

死亡見舞金	(傷害)	200万円
	(特定疾病)	150万円
後遺障害見舞金 (最高)	(傷害)	200万円
	(特定疾病)	150万円
入院見舞金日額	(傷害)	3,000円
	(特定疾病)	2,000円
手術見舞金	入院日額の10倍・20倍・40倍	
通院見舞金日額	(傷害)	2,000円
	(特定疾病)	1,000円